

作成日	2025 年 6 月 18 日
研究科名	表現文化専攻

自己評価：S・**A**・B・C

評価項目① 過年度からの改善・向上の取り組み

- (ア) 昨年度の自己点検・評価において各組織で記述した課題・改善方策や、内部質保証推進会議からの提言を踏まえ、現時点における取り組み状況・成果について記載してください。
- (イ) 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な指導・支援・フィードバック等を行い、それによって学生が意欲的に学習できているか。学生への指導や支援、成績評価やフィードバック等の取組状況を具体的に説明してください。また、期待した効果が得られているか、各種アンケート結果等をもとに検証のうえ、記載してください。

参照資料

- ・令和6年度自己点検評価シート
- ・令和6年度内部質保証推進会議からの提言
- ・第二期中期計画およびR7学長方針
- ・大学院生アンケート
- ・卒業時アンケート（大学院）
- ・資格取得や進路就職状況
- ・各種会議の議事録等

【現状分析】

(ア) 内部質保証推進会議から提言があった志願者確保については、在学生による専攻の授業紹介、及びそれぞれの教員が自身の専門領域について説明する専攻紹介動画を令和6年度に作成し、内外に向けて積極的な情報発信を行なった。この動画は現在も大学のウェブサイトから視聴することができる。学内推薦での志願者は毎年一定数いるが、学外からの受験者は少ない。また前年度自己点検で課題点として挙げた教員の職位構成については、学部の教員組織や採用方針と密接に絡んでいるので、若手教員の採用を進めることはできていない。

(イ) 本専攻では必修科目である領域横断的な授業をはじめ、異なる領域の学生が混在する授業も数多いが、教員はそれぞれの学生の興味・関心に応じてフレキシブルな授業を展開するよう努めており、教育研究上の目的に沿った適切な指導、支援が行われていると言える。また各学生の修了研究については年に2回行われる中間発表会を通して適宜アドバイスを与え、授業での取り組みに対しては教員間で学生の学修状況を共有することにより、全教員で学習に対する理解度・達成度を確認しながら細やかなフィードバックを行なっている。2024年度大学院卒業時アンケートにおける満足度の「専門的な知識が身につく授業の多さ」「少人数・ゼミ形式授業の内容・数」「教授、先生の授業への取り組みに対する熱心さ」は4.67ポイント、身についた能力スキルの「前向きな考え方、やる気を維持する能力」は4.00ポイントと高い数値であることから、学生は意欲的に学習を進めており、期待した効果が得られていると言える。

【成果】

上記にもあるように、大学院卒業時アンケートによれば、専門的な学び、ゼミの活動についての満足度は高く、大学院で身に付けた専門的な知識・技能を修了後、活用したいと考えている大学院生が多いことがわかる。また、修了後の進路についても、満足している割合は非常に高く、大

学院の教育の成果であると捉えられる。

【課題】

志願者および入学者については、学外からの説明会への参加希望などはあるものの、入学にはつながっておらず、安定的な学生確保の観点から課題となっている。また、教員組織の職位の偏りについて、あるいは若手教員の採用についての改善がなされていない為、今後の課題となっている。

【改善・発展方策】

大学院生アンケートによると、他学年との交流がないというポイントが低い。これについては、今後の改善点と言えよう。最初の方策として、これまでは、教員だけのFD活動を行っていたが、今後は大学院生と共に考える時間を設け、より充実感のある大学院として内容強化に努める予定である。また、学外からの入学志願者を増やすため、専攻説明会を対面のみならず、オンラインでも参加できるようにする。